

## 第20回情報システム学会・研究発表大会ポスター賞選定記

阿部秀尚、渋谷照夫

2024年11月30日(土)、第20回情報システム学会研究発表大会が、種智院大学(京都市向島)において、「情報文化と情報システム」を大会テーマとして開催されました。その中で、最優秀ポスター賞1点・優秀ポスター賞4点が選定されました。

【おめでとうございます！ 受賞者の皆様】

◆最優秀ポスター賞 (1件)

・P035

○安保美海(青山学院大学)、○夏目颯人(青山学院大学)、北村太一(青山学院大学)、居駒幹夫(青山学院大学)、宮川裕之(青山学院大学)：色覚異常者向けの授業資料の作成支援  
- 生成AIを利用した読み取りやすさの判断と改善提示 -

◆優良ポスター賞 (以下、4件)

・P049

○鶴木綾子(青山学院大学)、宮治裕(青山学院大学)：  
プロジェクションマッピングを活用した子ども向けのインタラクティブなジグソーパズル

・P053

○齊藤航太(青山学院大学)、宮治裕(青山学院大学)：  
ARによる意欲向上のための歴史学習支援システム

・P038

○板倉百茄(青山学院大学)、北村太一(青山学院大学)、居駒幹夫(青山学院大学)、宮川裕之(青山学院大学)：  
生成AIの利用は学生の数学理解を高めることができるのか

・P043

○松田菜那(青山学院大学社会情報学部)、宮治裕(青山学院大学社会情報学部)：  
音響信号分析を用いた聴覚障がい者向け音楽可視化システム

### 【賞選定のプロセス】

ポスター賞は、次の手順にて選考に至りました。

手順1（ポスター論文の応募、受付）：論文タイトル、発表者を記載いただき応募受付

手順2（ポスター論文の発表）：全国大会1日目の17時50分～18時50分の1時間の間に19件の発表が行われました。

手順3（ポスター論文の評価）：大会参加者がポスターの前で発表者の説明を自由に聞き、対話で質疑応答や激励を実施しました。1件のポスター発表を同時に複数名の参加者が聞いている所が多くあり大変、活発で盛況でした。

見聞した参加者が審査員となって、審査結果を審査用紙に記入しました。

評価は、1位、2位、3位の各々で、論文タイトルと良かった点を記述しました。

手順4（各賞選定）：ポスター審査集計委員（2名）が評価用紙を回収し、研究普及委員会で決定した基準のもと集計しました。集計結果に基づき、最優秀ポスター賞（1件）と優秀ポスター賞（4件）を決定しました。

### 【各賞の特徴と注目された点】

◆最優秀ポスター賞は最も評価得点が高かったポスターが選ばれます。

○安保美海（青山学院大学）、○夏目颯人（青山学院大学）、宮川裕之（青山学院大学）：色覚異常者向けの授業資料の作成支援・生成AIを利用した読み取りやすさの判断と改善提示 -

このポスターは、以下のような多くの重要な視点で良い評価を得ている。

- ・「生成AIを真に人の役に立つように使えている。」
- ・「有用性が高い、実現が容易。」
- ・「説明が分かりやすい。今後の研究の発展性が見込まれる。」など

◆優秀ポスター賞（4件）は、上位賞とは僅差で選出されています。

以下のような好評価コメントが出されている点が特徴です。

- ・「システムの評価まで行われて完成度が高く、発展性が見込まれている。」
- ・「そのシステムを自分が使ってみたい。使って教えてみたい。」
- ・「他者（例：子供たち、障害者など）を助けるキッカケになっている。」

### 【ポスター賞の選定を終えて（御礼、所感と今後への展望）】

まずは応募していただいた方々に御礼申し上げます。

今回は開催場所を関西地区にしましたが、19件という多数の応募をいただきました。

次年度も、より多くの方々（学生や企業の方々など）からの応募を期待したいです。

ポスター論文は、研究論文と異なり、比較的応募し易い、ポイントを絞りやすい、多くの参加者と意見交換をフランクにし易いなどのメリットが多い方式イベントと思われま

す。ポスター論文の意義や位置づけについても多くの可能性を感じています。

ポスター論文がキッカケでそのテーマを深堀や拡大、他テーマとの関連付けなどにより研究を進展させて成果につなげて行ける可能性があります。

例えば、今回はポスター論文で発表して、次年度は研究論文へ発展させることや、執筆者もご自身の継続から後輩（学生）への伝承、就職後の発展研究、企業内での研究や実践と連携することなどが考えられます。

テーマによっては大きな研究テーマの中で中間段階に位置づけられるサブ・テーマもあると思われま

す。今回の発表での質疑で頂いた意見や残された課題などを引き継いで、次年度以降でも研究を深堀や拡大されることを期待、希望致します。

審査、評価については、大会参加者方々に、定型の審査用紙を使用して審査いただきました。審査者が 20 名と多く協力いただいたことで、客観性の高い審査がなされたと思います。今後も参加者によるこのような審査方式を、改善（電子投票化、評価フィードバック強化など）を含めて継続して参りたいです。

「ポスター賞」は当情報システム学会の独自性、特徴の一つであり、本方式イベントの更なる改善や外部へのアピールにも取り組んで行きたいと考えま

す。

以上、ご報告です。

当学会の更なる発展から、情報システム関連組織、人々に貢献できるよう尽力して参ります。